

かざぐるま

50号
連携の風

CLOSE
UP



- 田中地域連携センター長挨拶
- かざぐるま 50号記念 地域連携センター特集
- 形成外科紹介

- 栄町ファミリークリニック
- 第1回市民公開講座 開催報告

市立札幌病院

●使命

市民のため、「最後のとりで」として地域の医療機関を支える

●役割

- 1 高度急性期病院として地域の医療機関を支える
- 2 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える
- 3 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する
- 4 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する

●基本理念

すべての患者さんに対してその人格信条を尊重し、つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

「かざぐるま」 第50号 記念のご挨拶

地域連携センター広報誌「かざぐるま」は、今号をもちまして記念すべき第50号という大きな節目を迎えることができました。これはひとえに、日頃から温かいご支援とご協力をいただいております地域の医療機関の皆さま、そして関係者の皆さまの厚い信頼の賜物と、心より感謝申し上げます。

当院に地域連携センターが開設されたのが2008年4月のことであり、広報誌「かざぐるま」の初回の発行は2009年6月でした。巻頭言は当時の地域連携センター長であった富樫正樹先生が執筆され、その内容は地域完結型医療を実現する上で当院と地域の医療機関との信頼関係の構築が重要であることと、そのための地域連携センターの役割に関するものでした。以来17年あまりの間、本誌は、当院の医療方針や体制、最新の取り組みなどを紹介し、地域の先生方との顔の見える関係づくりを目指して歩みを進めてまいりました。誌名である「かざぐるま」には、地域連携と言う輪が回り続けるように「かぜ〜アクション」をいろいろな方向から吹かせていきたいとの願いをこめてつけられたものです。

この50号という数字は、当院と地域の先生方が共に歩んできた信頼の軌跡そのものです。これからも、患者さんを中心とした質の高い医療と温かいネットワークの輪が回り続けるよう、有用な情報を発信してまいります。

今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



市立札幌病院 地域連携センター
センター長（院長）

たなか ひろし
田中 博

Hiroshi
Tanaka

広報誌
かざぐるま
50号記念

地域連携センターの ご紹介

～業務内容と相談先について～ 保存版

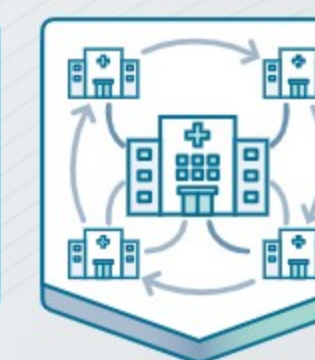


地域連携センター部は、途切れない医療の架け橋として、院内外の多くの部署や施設をつなぐ機能を果たしています。患者さんが安心できる「医療」「介護」を提供するため、多様な職種が専門性を持ち寄り、協働しています。人と人の連携（多職種チームによるサポート）、デジタルの連携（すずらんネット、オンライン予約による効率化）、命をつなぐ連携（Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤルによる24時間365

日の緊急対応）について掲載しております。是非、ご覧いただき、医療機関の皆さまの日頃の医療にご活用いただければ幸いです。市立札幌病院地域連携センターを今後ともよろしく願います。

地域医療を支える4つの主要業務

紹介・逆紹介：
スムーズな受け入れと逆紹介



地域医療連携：
地域の医療機関との協力

医療DXの推進：
ICTによるシームレスな情報共有



相談・転院・在宅支援：
患者さんの望む暮らしの実現

どの相談をどの係へ？

担当係	主な業務内容	主な協働職種
地域連携係	新患外来予約、オンライン予約、開放型病床の運営、訪問活動、医療機器・図書館等の共同利用、ID-Link（すずらんネット）管理	診療放射線技師、事務、社会福祉士（MSW）
入院支援係	がんに関する専門的な相談（がん相談支援センター）、かかりつけ医相談、入院予約患者への入院前支援、訪問看護・介護の書類管理	看護師、事務
退院支援係	入院患者の転院調整、在宅療養に向けた支援	看護師、社会福祉士（MSW）
精神福祉相談担当係	精神疾患を伴う患者の転院調整・福祉相談	精神保健福祉士（PSW）

（2026年9月現在）

市立札幌病院 医療 DX の推進

医療 DX ①：地域医療連携ネットワークシステム「すずらんネット」について

◆ すずらんネットとは

市立札幌病院と連携している医療機関が、患者さんの同意を得て当院に受診歴のある患者さんの診療情報を閲覧できるネットワークです。当院では、ベンダーを問わずシステムやサービスの連携を行うことが可能な「ID-Link」を使用しています。また「すずらんネット」以外のネットワークとも連携しており、双方向連携による診療情報の相互参照を推進しています。

参加登録等に関するお問い合わせ → 地域連携係 TEL:011-726-2211 (代表)



医療 DX ②：オンライン予約について

当院では紹介元である医療機関様、患者さんの利便性向上を図るべく、WEB 予約申請システムを導入しました。このシステム導入により、インターネットを通じて、簡単かつ迅速に当院の予約申請を行うことが可能になります。

- 市立札幌病院への紹介状をお持ちの患者さんのみ、WEB 予約をご利用いただけます。
- 宛名が他院や未記載の紹介状ではご予約いただけません。
- 健診により再検査となった方も、健診結果をお持ちであれば WEB 予約をご利用いただけます。

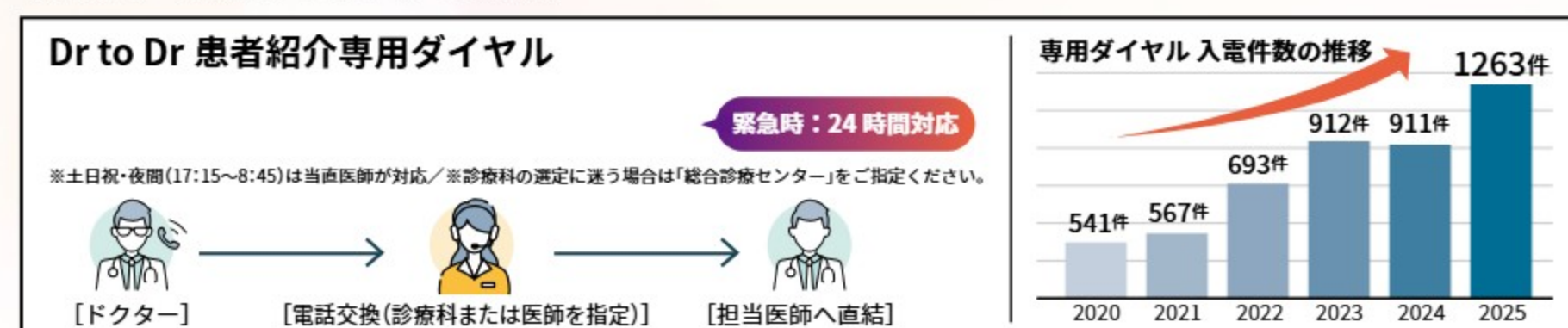
ご予約は当院ホームページよりお申し込みください。

※市立札幌病院オンライン予約のチラシをご希望の医療機関様は下記担当部署へご連絡ください。

オンライン予約に関するお問い合わせ → 地域連携係 TEL:011-726-2211 (代表)

受診・入院に関する問い合わせ

①即入・緊急性のあるご相談



②新規の外来予約

【保存版】新患外来・各種検査予約マニュアル ご予約窓口・連絡先詳細		
①札幌市医師会会員の医療機関 必要書類 「地域医療室」宛の診療情報提供書 連絡先 札幌市医師会地域医療室（直通） TEL：011-707-7705 FAX：011-707-7706	②①以外の医療機関 必要書類 「地域連携センター」宛の診療情報提供書 連絡先 市立札幌病院予約センター（直通） TEL：011-726-7831 FAX：011-726-7832	③患者さん・ご家族 必要書類：①診療情報提供書 または ②健康診断結果用紙 ※乳腺外科は自覚症状があれば不要 【電話予約】 予約センター TEL：011-726-7831 【オンライン予約（24時間受付）】 当院ホームページよりお申し込みください
受付時間：月曜～金曜 8：45～17：00（①のルートは 9：00～）／土日祝日 休診 ※緊急時以外の新患外来予約は、Dr to Dr ダイヤルではなくこちらのルートをご利用ください。		

形成外科のご紹介

新形成外科部長就任のご挨拶

令和 8 年 4 月 1 日付で、市立札幌病院形成外科部長に就任いたしました齋藤亮と申します。このたび、紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は埼玉県立春日部高等学校を卒業後、北海道大学医学部を卒業し、北海道大学形成外科に入局しました。その後、北海道大学病院をはじめ、函館中央病院、亀田総合病院、釧路労災病院、日鋼記念病院などで研鑽を積み、2003 年には北海道大学大学院に進学し、皮膚悪性腫瘍に関する研究で学位を取得しました。

さらに、癌研有明病院形成外科で乳房再建や頭頸部再建、骨軟部腫瘍再建を学び、その後はイタリア・ミラノの European Institute of Oncology に留学し、頭頸部再建および乳房再建の手術を研修しました。

2011 年から 15 年間勤務した北海道がんセンターでは、乳房再建や軟部組織再建を中心に診療を行ってきました。乳腺外科をはじめとする多職種と連携し、人工乳房（インプラント）による再建と自家組織による再建の両方に取り組み、多くの患者さんの治療に携わる機会をいただきました。

これまで培ってきた経験を生かし、市立札幌病院でも患者さん一人ひとりに寄り添い、安全で質の高い医療を提供するとともに、地域の医療機関の皆様と連携しながら地域医療に貢献してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



市立札幌病院形成外科部長

さいとう あきら
齋藤 亮

Akira Saito

当院形成外科について

形成外科は、けがや病気、生まれつきの異常などによって損なわれた体の形や機能を回復し、患者さんがその人らしい生活を送れるよう支援する診療科です。頭から足先まで全身を対象としており、見た目だけでなく、機能や生活の質（QOL）の向上を目指した治療を行っています。

当院形成外科の大きな特徴は、下肢救済センターの一員として難治性潰瘍の治療を数多く担当していることです。また、救命救急センターと連携し、重症熱傷や壊死性筋膜炎、ガス壊疽などの重症軟部組織感染症の治療にも積極的に取り組んでいます。

さらに、耳鼻咽喉科や歯科口腔外科と協力し、口腔・咽頭がんの切除後に対する再建手術を行っています。患者さん自身の組織を移植する高度な再建手術により、食べる・話すといった大切な機能の回復に努めています。

近年は高齢化に伴い皮膚がんの患者さんも増加しています。手術が難しい場合には放射線治療科と連携し、それぞれの患者さんに適した治療を提供しています。

現在、当科には堀内勝己副院長（下肢救済センター長）をはじめ、形成外科専門医を含む8名の医師が診療にあたっています。また、初期臨床研修医も毎年2～3名受け入れ、次世代を担う医師の育成にも力を入れています。

今後も地域の医療機関の皆様と密に連携し、患者さんに安心して受診していただける形成外科を目指してまいります。皮膚・皮下腫瘍、難治性創傷、外傷、熱傷、皮膚がん、再建手術など、形成外科でお役に立てることがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



当科が治療した熱傷



連携医療機関のご案内

栄町ファミリークリニック



当院は2010年の開院以来、幅広い健康問題に対してお子さんからお年寄りまで年齢を問わず、患者さんのみならずご家族や地域の皆さんにもご相談をいただけるようなクリニックを目指してまいりました。

家庭医療・総合診療専門医が中心となり、各診療科の枠を超えて「人であれば起こしうる様々な症状」に対しての診断、治療を行っております。また健診、予防接種も各種行うことはもちろん、新型コロナ発生時には、ワクチンや発熱外来、自宅待機

者への緊急往診にも即応して、地域のニーズに応えてまいりました。

当院へは実に様々な症状を有した方々がお越しになりますので、時には精密検査、手術等が必要な場合もございますが、その際には市立札幌病院をはじめとする各専門医療機関をご紹介します。問題が解決すれば再び当院へ戻ってきていただき、再度各種疾患に対して包括的な診療を継続しております。

また、多くの訪問看護ステーション、居宅介護事業所、調剤薬局の皆様と連携して訪問診療にも力を注いでおり、通院困難な方であればどのような方にも定期的にご自宅に伺い診療をさせていただいております。認知症、各種難病等をはじめ、癌、非癌問わず人生の最終段階に差し掛かっておられる方々も含め、チーム一丸となってきめ細かな対応を心がけております。

今年度は常勤9名、非常勤3名の医師が在籍しており、最近は、地域の皆様から頼っていただける医療機関として認識されはじめていることを実感する場面が増えております。行政とも連携して、皆様に安心して選んでいただけるかかりつけ医を目指しスタッフ一同、日々精進してまいります。どうぞこれからも栄町ファミリークリニックをよろしくお願い申し上げます。

●交通案内

住 所 〒007-0841
北海道札幌市東区北41条東15丁目1-18
TEL 011-723-8633 FAX 011-722-9387
駐車場 5台
アクセス



●診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:30	●	●	●	●	●	●
	平日は 11:30 で受付を終了します					●
午後 14:30～17:30	●	●	休診	●	●	休診

受 付 受付は診療終了時間の30分前まで
※終了時間は曜日によって異なります

休 日 日曜・祝日

H P <https://sakaemachi-fc.hcfm.jp/>



第1回 市民公開講座 開催報告

開催日 令和8年7月8日(水) 13:30～15:00

テーマ 家族と自分を『まさか』から守る！～自分らしく暮らすための脳活・血管ケア～

講師 脳神経外科 部長 三上 毅

令和8年7月8日(水)に第1回 市民公開講座を開催しました。「家族と自分を『まさか』から守る！～自分らしく暮らすための脳活・血管ケア～」をテーマに脳神経外科 三上毅部長が講演し、89名と多くの方にご参加いただきました。講演内容は、脳卒中の基礎的な内容や予防について、市民向けにわかりやすくお話されました。

質疑応答では内服に関することや緊急時の対応など多くの質問があり、三上部長から一つ一つ丁寧に回答されました。また、アンケート結果では9割以上が「満足」と回答しており、自由記載欄では「大変わかりやすかった」「具体的な予防について学んだ」と好評の意見を沢山いただきました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤルをご活用ください

～紹介する診療科に迷う場合は「総合臨床センター」をご指定ください～

Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤル TEL: 011-788-6570

ご利用方法

- ※医師よりお電話をいただき、ご指定の診療科または医師をお伝え下さい。
- 電話交換より担当医師におつなぎ致します。
- ※土日祝、夜間(17:15～8:45)は当直医師が対応致します。



【新患紹介患者予約状況～予約枠活用によりスムーズな受入～】

昨年度、諸般の事情で受入に遅延が生じた診療科があり大変ご迷惑をおかけしました。今年度は予約枠の適正化をはかり呼吸器内科・消化器内科をはじめとして、迅速な受入が可能です。ぜひ、対象の患者様をご紹介ください。※予約方法は3ページをご参照ください。

編集後記



昨年2月に誕生した息子が、今年4月から保育園に通い始めました。最近は言葉や歌を覚え、ゴミを拾って捨てるなど、頼もしい成長ぶりに日々感動しています。しかし同時に、待っていたのは容赦ない「保育園の洗礼」でした。胃腸炎、ノロ、手足口病……と、まるで感染症のフルコース。漏れなく親である私にも感染し、我が家は一時、家庭内パンデミック状態に陥りました。毎日が生きる戦いですが、そんな中でも息子は、物を手渡す時に「どうぞ」、目が合えば「どうも」、別れ際には「ばいばい」と、やたらと社会性あふれる挨拶を使い分けるようになりました。ウイルスを家庭内に「どうぞ」するのは勘弁してほしいですが、この健気な挨拶に免じて全てを許してしまう毎日です。そんな我が子の「どうぞ」の精神を見習い、本誌も地域の皆様へ心のこもった情報をお届けできるよう努めてまいります。(記・志田)

ホームページもご利用ください

市立札幌病院

